



高石の発展は駅とともに

歴史から考える駅を中心としたまちづくり

11月に開催された橋爪 紳也氏による文化講演会「高石の洋風住宅と郊外生活 高師浜・羽衣・伽羅橋」の内容と、連続立体交差事業を契機とする今後のまちづくりについて、阪口市長とのトークセッションの内容を一部お伝えします。

問合先 駅周辺整備課 ☎(275)6410 社会教育課 ☎(275)6437



高師浜の海水浴場



今も残る浜寺公園の松の木

橋爪氏…大正7年に羽衣駅と伽羅橋駅の区間が開通し、翌8年に高師浜駅ができました。浜寺から羽衣、高師浜へと続く海岸線は、いわゆる「白砂青松」、自然の眺めが清らかで美しい景色に優れた土地でした。この土地は駅の完成とともに、海水浴、保養などを目的とする別荘・高級住宅街として発展し、高師浜の海水浴場は東洋一のリゾート地として、年間約100万人の観光客で賑わいました。

駅とともに 発展した高石のまち



橋爪 紳也氏
大阪公立大学研究推進機構
特別教授

開放的で緑豊かなまち 「キャラバシ園」

橋爪氏…南海電鉄高師浜線の開通に伴い地元の名望家らが出資をして南海土地建物株式会社を設立。この会社は、芦田川と今川の紀州街道以西に高級住宅地を建設していき、その一つとして伽羅橋駅周辺に「キャラバシ園」を作りました。

「キャラバシ園」はアメリカの田園都市を参考に園全体を一つの公園のように設計。園の中央には噴水を設置し、道路は白色に塗られ、洋風住宅の周りには芝生や木で、豊かな自然環境に恵まれた住宅地として開発されていきました。



キャラバシ園の絵葉書

南海本線・高師浜線 連続立体交差事業



この事業は、南海本線・浜寺公園～北助松（付近）間と高師浜線・羽衣～伽羅橋間のうち、南海本線の約 3.1km と高師浜線の約 1.0km の線路を高架化するものです。これにより市内 13 カ所の踏切が解消され、東西が自由通路で結ばれ駅周辺が活性化します。1997 年に事業認可を経て 2005 年から鉄道工事に着手。南海本線は 2016 年 5 月に下り線の高架化が完了し、2021 年 5 月には上り線の高架化も完成。残る高師浜線は現在工事中です。

鉄道高架化による 新たな空間の活用



イラストはイメージです

鉄道高架化により生まれる新たな人の流れを最大限に活用し、高石駅を中心として東西のまちが一体となります。そして、より一層魅力がえられる新しい高架化空間・駅周辺エリアを創造し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現をめざします。



高石駅前芝生化社会実験の様子



阪口伸六市長

阪口市長：橋爪先生の講演にもありましたが、高石のまちは駅の発展とともに賑わってききました。そういった歴史を大切にしながら、新たな発展のために令和 5 年は多世代交流の象徴の場として高石駅前を整備していきます。

これからの歩きたくなる
駅前まちづくり

具体的には、社会実験で実現したような広場に緑豊かな芝生空間を広げ、子ども連れの親子が買い物ついでに遊べる場や、週末には多様な市民活動の表現の場として活用できる空間を作ります。そして、「人がつながる、集う場となる、ひらかれた駅前」の実現をめざします。



キャラバシ園の歴史を伝える 「旧赤木家住宅」

洋館は、20 世紀初頭のアメリカのコテージスタイルの影響を受けた洋館建築の典型で、大正 14 年に完成。その後和館が増築され、和洋セットの先進的な郊外型邸宅として作られました。

平成 12 年に、国登録有形文化財に登録されましたが、令和 4 年に解体され、赤木氏より玄関ドアなどの貴重な史料は、市に寄贈いただきました。

キャラバシ園の歴史を伝える旧赤木家住宅の 360 度パノラマビューがご覧いただけます。QR コードからご覧ください▶



外観



洋館



和館

